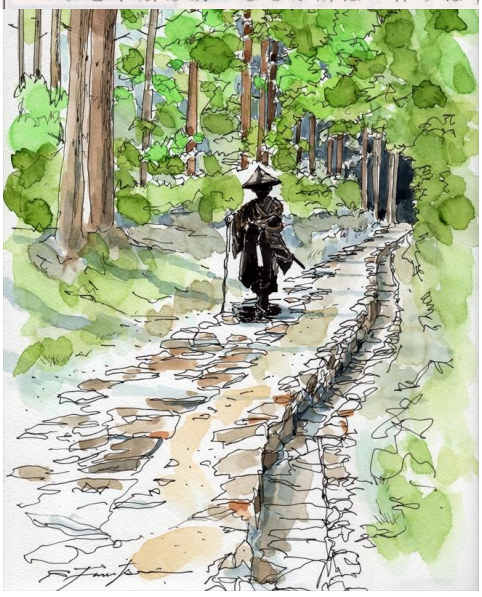
今日のイラスト 325　「 イラストでたどる萩往還⑨ 一升谷茶屋渓谷」　　古谷眞之助

明木からの萩往還は、国道 262 号線から離れて一升谷を約 4km 上っていく。この一升谷の上り下りコースは、「やまぐち萩往還語り部の会」のガイド実績が最も多いところ。ミニコミ紙にも書いたように、何と言っても最も萩往還らしい雰囲気が味わえるからだろう。長い上りとはなるが、右手には茶屋川がつかず離れず流れていて、せせらぎの音を聞きながらのウォークは快適そのもの。4km の上りと言っても、キツイのは最後の 1km 弱で、そこまでは樹間をゆったりと進んでいく。途中の何ヵ所か、道を離れて渓流に下りてみると良い場所がある。下りればイラストのようなシーンが楽しめるはずだ。山道は夏には樹々が太陽光を遮って心地良いし、冬、強風に晒されることもない。しかも随所にオリジナルの石畳が残っていて、往時を偲ぶことができるのである。その雰囲気は小イラストをご覧いただきたい。幕末、萩藩の多くの志士たちはここを辿って京、江戸へと向かって偉業を成し遂げた。だから私は、ガイドの際にはいつもこう言っている。「失礼ながら、萩往還はただ漫然と歩いてはいけません。あなたの足の裏から志士たちの熱い想いを感じて歩いて欲しいのです。彼らの多くが志半ばで倒れて行きました。いかがでしょう、それが感じ取れますか？」「At the end of Edo period, many Samurais were dead without achiving their purposes by the war against Shogun. When you walk Hagiohkan, I want you not to walk aimlessly, but to feel hot spirits of Samurai through the sole of your foot. Can you feel it ?」（ 2019.12.27 記 ）

イラストでたどる萩往還 09　一升谷茶屋川渓谷

文・イラスト＝古谷眞之助

明木の街を後にすると、萩往還は明木川の支流、茶屋川沿いをつかず離れずといった感じで一升谷へと伸びていく。奥深い谷には樹々がうっそうと生い茂り、急登さえなければ夏でも快適なウォークが楽しめる所である。樹間を抜ける陽光がたっぷり往還に零れ落ちて思いのほか明るく、それは同時に往還沿いの小さな渓谷の水面の所々を眩しく照らす。

是非とも渓谷に降り立ってみて欲しい場所が一升谷には3か所はある。一人歩きであれば、火照った頬を流れで冷やし、近くの岩に腰を下ろして、しばしせせらぎの音に耳を傾けるのも良いだろう。しばらくすれば、きっと森の奥からニンフ達のお喋りが聞こえてくるに違いない。